新見公立短期大学紀要　第25巻
pp. 53－62, 2004

原　著

地域と創る「にいみこどもフェスタ」

－平成16年度特色ある大学教育支援プログラムに採択されて－

片山　啓子・安達　雅彦・金山　和彦

表現教育

" Niimi Children's Fiesta "

—Being Adopted to the "Good Practices(GP)" by the Ministry of Education, Culture, Sports and Technology—

Keiko KATAYAMA　Masahiko ADACHI　Kazuhiko KANAYAMA

(2004年11月10日受理)

文部科学省が平成15年度より実施している、優れた大学教育を財政支援し学生の教育の成果を評価する事業である「特色ある大学教育支援プログラム」に、平成16年度に申請した本学幼児教育学科の表現発表会（取組名称：地域と創る「にいみこどもフェスタ」）が採択された。本稿はその申請書に加えて採択理由及び補助金交付申請の概要について記載したものである。

Ⅰ.「特色ある大学教育支援プログラム」申請書

1．大学・短期大学の特色（概要）

本学は昭和55年、全国初、現在でも唯一の広域事務組合によって設立された公立短期大学である。キャンパスは岡山県の北西部に位置する、昨年6月全国初の電子投票を実施したことで注目された新見市にあり、新見市と隣接する阿哲郡4町（大佐町・神郷町・哲西町・哲多町）からなる阿新広域事務組合立の新見女子短期大学として幼児教育学科と看護学科の2学科で発足した。平成8年には地域福祉学科を増設、平成11年"新見公立短期大学"と名称変更し、平成12年までに全学科を男女共学とした。また平成16年度には保健師養成の地域看護学専攻科を設置した。

開学以来の卒業生は約2900名、その多くが全国各地で幼い子供たち、病める人、年老いた人や障害のある人たちと関わる対人援助の専門家として活躍し高い評価を得ている。まさに本学の建学の精神である"誠実・夢・人間愛"を具現、実践していると言えよう。

ここ新見は古くから交通の要衝として栄え、現在も中国自動車道の新見ICやJR伯備線など三線の交差する新見駅がある。交通の利便性には比較的恵まれてはいるものの岡山・倉敷からは遠隔の地にあり、人口の減少や高齢者の増加など過疎化の進む山間の地域である。しかし、当地域は本学の設立や電子投票・情報通信ネットワークの早期導入などに象徴される進取の気風に富み、活性化に取組む地域の人々の熱い思いが感じられる町である。

本学の大きな特色は、この地域の人々の期待と誇りを担い、学生が集まりにくい環境条件であるにも拘わらず、敢えて高等教育機関の重要性を唱えて設立された公立の短期大学であることと、そのような地域に、純粋に勉学を目指して全国から受験・入学してくる学生の絶えないこと、そして、教員が力を注げば注ぐほど学生はその指導や教育に応え、毎年ほぼ100%が専門分野への就職・進学を果たして卒業していくことである。

2．取組について

（1）取組の内容について

〈「にいみこどもフェスタ」の概要〉

この取組は、新見市の公立ホール「まなび広場にいみ」において開催している新見公立短期大学幼児教育学科の表現発表会である。「にいみこどもフェスタ」と銘打ち、地域の子どもたちを対象に劇・ミュージカル・歌・創作ダンスなどを舞台で上演している。

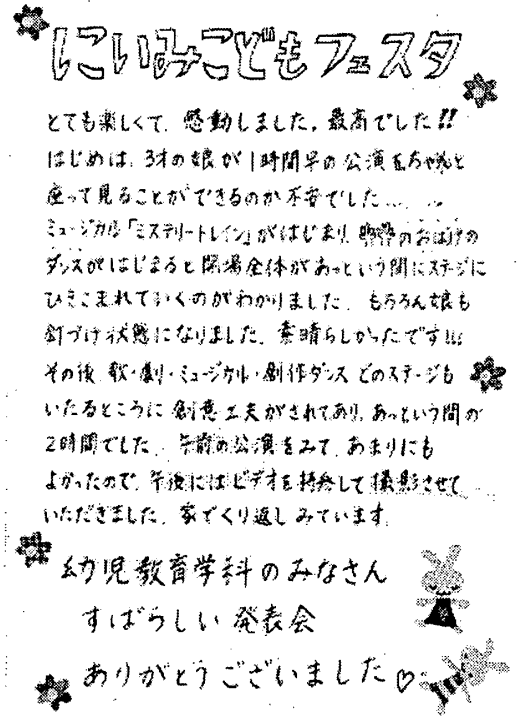
【様式3のA．第13回「にいみこどもフェスタ」ポスター（H16.2.28開催）】

昨年度で第13回を迎えた「にいみこどもフェスタ」は、一日午前・午後2回公演（入場無料）、安全上の課題により一階席のみ使用700名収容の客席は毎回ほぼ満席で、少ないときでも午前・午後合わせて約1000名、多いときで約1400名の入場者は当ホールの定期公演としては最大の観客動員数を誇り、地域の子どもたちには恒例の催し物となっている。この催しの主な対象となる0～6歳の幼児の人口は、新見市だけに限っても、およそ計1200名である。他に競合する催しが殆どないとは言え、対象年齢の限定されたこのような催しとしては驚異的な観客動員率と言えよう。

上演作品は全て表現系の授業科目の中で、およそ半年から一年をかけて4～5作品を制作、一年次生は約50名全員が出演者と舞台スタッフとして、また二年次生は卒業研究として表現系の研究室に所属した学生や表現系の選択科目を受講した学生が出演または舞台スタッフとして、それ以外の二年次生は当日の会場スタッフとして、いずれも幼児教育学科の全学生100名余りがそれぞれの役割で参加している。

制作指導においては、音楽・身体表現・造形・言葉を担当する表現系教員（専任教員4名、非常勤講師1名）がチームを組み、各作品に対してそれぞれ専門分野に応じた指導を行っている。また、表現系以外の教員・事務職員は当日の会場スタッフに加わるなど本学を挙げての協力体制が整っている。

作品制作にあたっては既成の舞台脚本等は使わず、原作物の劇は脚本作りから始めること、他の作品も構成・演出は元より、使用する音楽の作詞・作曲、ダンスの創作・振付、舞台装置の考案・製作など全てオリジナルでの上演を旨としている。これらは勿論子ども向けの作品であることは言うまでもないが、決して“子どもだまし”になることなく、よく練られた舞台構成と磨かれた表現技術での上演を目指している。


にいみこどもフェスタ

とても楽しくて、感動しました。最高でした!!
はじめは、3才の娘が1時間半の公演をちゃんと座って見ることができるのか不安でした……
ミュージカル「ミステリートレイン」がはじまり、動物のおはなしのダンスがはじまると会場全体があっという間にステージにひきこまれていくのがわかりました。もちろん娘も釘づけ状態になりました。素晴らしかったです!!
その後、歌・劇・ミュージカル・創作ダンス　どのステージもいたるところに創意工夫がされてあり、あっという間の2時間でした。午前の公演をみて、あまりにもよかったので、午後にはビデオを持参して撮影させていただきました。家でくり返しみています。

幼児教育学科のみなさん
すばらしい発表会
ありがとうございました♡

【様式3のB．来場者（幼児の母親）から寄せられたハガキ】

タイトル通り「にいみこどもフェスタ」は地域の子どもたちを対象に始めた取組ではあるが、大人だけの、中でも高齢者の観客が年々増え、童心に返って楽しまれている様子が窺える。また、近隣地域だけでなく、全国各地から多数の卒業生や在学生の家族がわざわざ訪れたり、他の養成校から学生や教員が研修として来場するなど世代や地域を超えた舞台公演活動として各方面からその舞台構成や表現技術が高い評価を得ている取組である。

保育者養成における「表現」領域に関する分野は必修科目として全ての養成校で履修され、その成果を学外の公共ホールを借りて子どもたちに見せる舞台発表活動は各地で催されており、特に珍しい取組とは言えない。一般にこのような発表会はその養成校が主催者として開催されるのが普通である。しかし、「にいみこどもフェスタ」は新見市の公立ホール「まなび広場にいみ」が自主企画事業として主催、本学が共催という形の共同開催事業として行われているところが、他には見られない大きな特色である。

〈「にいみこどもフェスタ」の目的〉

1）公立のホールと連携して、地域の子どもたちにできるだけ質の高い舞台を提供する。
2）行政と地域住民、そしてこの地に設立された公立短大である本学も地域の一員として共に連携し、表現活動を通して活気ある「町づくり」に参画する。
3）舞台発表することにより学生の表現力が飛躍的に向上すると共に、直に子どもの反応に触れることにより、実習と同様の学習効果を得る。
4）将来、保育者となる学生に、保育現場での多様な形の「発表会」に対応できるよう、できるだけ本格的な舞台進行や運営を経験させる。

〈「にいみこどもフェスタ」に対する経費的支援〉

本取組を実施するにあたり、本学のような小規模の公立短大にあっては経費面での負担が、直面する最も困難な課題であった。しかし13年間の取組を通して本学教職員はもとより行政・地域住民からも地域貢献として、あるいは教育活動としての意義や効果が理解され、その舞台表現のレベルも高く評価されて、物心両面での充分な支援が得られるようになった。

本取組のようにリハーサルを含めて1週間ものホール使用で、しかも厳寒期に舞台公演活動を実施する場合、普通、主催者の負担は最低でもおよそ100万円程度の経費が掛かる。しかし、本取組は共同開催の体制をとっているため両者の負担額は半分程度で済む。また、ホール側は会場運営面を、本学側は舞台運営面を主に担当すればよいことや、広報活動においても担当領域を分担して行なえることなど多くの利点が挙げられる。

ホール負担の経費（概算）

会場使用料	40万円
印刷	6万円

本学負担の経費（概算）

作品制作に伴う教材費	10～30万円
印刷費	15万円
駐車場警備委託料	7万円

本学の負担経費のうち「駐車場警備委託料」については、当初、駐車場誘導は本学教職員が担当していたが、安全管理上、ホール新設移転を機に第10回公演より予算計上し、警備会社に委託したことに伴う経費である。

（2）取組の特色性について

1） 開催の体制

新見市の公立ホール「まなび広場にいみ」が、地域文化への寄与及び青少年の健全育成を主な目的とする自主企画事業として、ホールの運営母体である新見市及び新見市教育委員会の主催、本学幼児教育学科の共催という形で行われている。

2）オリジナル作品の上演

「にいみこどもフェスタ」はすべて創作によるオリジナル作品の上演が大きな特色であり、第13回を数える今回まで一度として同じ演目や既成作品を取上げたことはない。また、演技であれ舞台装置であれ、毎回何か新しい試みを採

り入れており、これがリピーターの来場者から特に高い評価を得ているところでもある。

上演回数	プログラム内容
第１回	劇「こぶとりじいさん」 創作ダンス「みんな集まれ！」 他３作品
第２回	劇「おむすびころりん」 人形劇「よくばりこぐま」 他４作品
第３回	劇「空にのぼったかさや」 創作ダンス「はる・なつ・あき・ふゆ」 他３作品
第４回	劇「三まいのおふだ」 創作ダンス「ちいさいものはなーに」 他３作品
第５回	劇「わらしべ長者」 音楽劇「のんちゃんの冒険」 他３作品
第６回	劇「こぎつねのおくりもの」 創作ダンス「宇宙へ･･･」 他３作品
第７回	劇「ちからたろう」 人形劇「オズの魔法使い」 他４作品
第８回	劇「ないたあかおに」 歌「なつかしい歌・わらべ唄」 他２作品
第９回	劇「たつの子たろう」 影絵劇「こびとのくつや」 他３作品
第１０回	劇「まめつぶころころ」 創作ダンス「ぼくんちの思い出」 他１作品
第１１回	劇「河童の雨乞い」 創作ダンス「街を歩けば♪」 他２作品
第１２回	劇「蛙の恩返し」 動く顔と創作ダンス「笑顔・泣きむし・怒りんぼう」 他３作品
第１３回	劇「うりこひめとあまんじゃく」 創作ダンス「気球に乗って～世界旅行～　他３作品

【様式３のＣ．表現発表会のあゆみ（過年度上演プログラム一覧）】

３）ホールによる支援

ホール側の全面的な支援により本番前一週間は貸切り状態でホールを使用でき、入念な舞台稽古やリハーサル、そして舞台仕込みやスタッフ打ち合わせ等の時間が十分に確保できる(通常の公演ではリハーサルは前日のみのホール借用が一般的)。したがって、出演者・スタッフ共に舞台における表現技術が磨かれ、それが本取組に対する高い評価の大きな要因となっている。

なお、この一週間のリハーサルについては、教授会の承認を得た時間割上に記載している。２年次生は卒業試験後の授業のない期間に、また授業期間中である１年次生は授業の合間や土・日を使って4km以上離れたホールに通い、リハーサルを重ねている。

４）地域の報道各社による支援

新聞各紙や放送局など地元の報道各社による積極的かつ好意的な広報活動も特色として挙げられる。地域のケーブルテレビでは、「5.5子供の日」に特集として繰返し放映するなど、報道による支援体制が本取組の広報活動における大きな一翼を担っている。

2004年 2月29日

高梁・新見圏版

ミュージカルで夢の旅

新見公立短大発表会

体揺すり 子どもたち大はしゃぎ

【様式３のＤ．「山陽新聞」記事】

５）公演録画ビデオの活用

舞台を収録したビデオテープは、希望する保育所・幼稚園・幼児クラブ・公民館などに配付し、上映会として、また表現活動の教材として活用されている。

６）メディア媒体の活用

ａ．阿新広域情報通信ネットワークによる配信

ひとりでも多くの方に観ていただけるよう本学の設置母体である阿新広域事務組合と連携し、情報通信ネットワークを使って今回の第13回公演をライブ配信した。

阿新広域情報通信ネットワークは新見市他４町全域をカバーする公共ネットワークとして平成14年度に完成し、主要な公共施設・教育機関をはじめ、農業協同組合・郵便局･地区集会所等、約300施設をカバーし、公開端末(パソコン)を設置

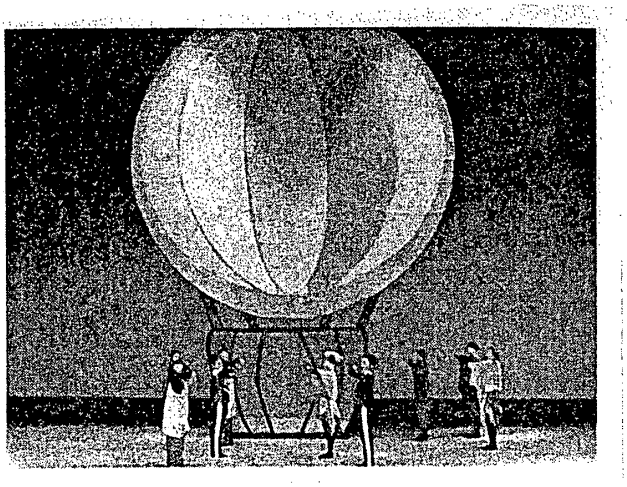
している。設置目的として、防災・介護・教育を前提にアプリケーションの一つとして動画配信サーバを整備しているが、実際には著作権・肖像権等の制約により映像配信できる内容が限られているのが現状である。しかし「にいみこどもフェスタ」は、脚本・音楽等すべてがオリジナルで構成されており、音楽著作権・肖像権の承認もクリアしやすいため配信ソースとしては最適なアプリケーションである。またVOD（ビデオ・オン・デマンド）配信により、過年度の公演も自由に閲覧できるよう準備作業中である。

b．動画画面の作成と演出

メディア機器を使った舞台演出としてこれまでにも学生がパソコンによるスライド静止画像を製作し、作品に応じた舞台背景として多用してきたが、第12・13回の催しにおいては、動画ソフト(シャープ「アニメータ エバキッズVer.1.0」)を使用し動画画面を作成、プロジェクター投射により舞台において身体表現と一体化した作品を発表した。

第12回公演では、発泡スチロールで製作した立体的な幼児の顔(縦360cm・横270cm)をスクリーンにし、子供の様々な表情を映写した作品「動く『顔』と創作ダンス“笑顔・泣きむし・怒りんぼう”」を制作した。なお、この作品は、「全国マルチメディア祭inおかやま2002」新見会場に参加し、離れた実演会場と子どもたちのいる「まなび広場にいみ」舞台上のスクリーンとを情報通信ネットワークで結ぶ動画配信実験を試み成功した。また、同年に開催された第43回中・四国保育学生研究大会でも発表し、新しい演出として大きな話題を呼んだ。

第13回公演では、ベニヤ板で気球の形（直径540cm・高さ810cm）を切出し、これをスクリーンにして地球や世界各地の景観を映写して、バトンの上下操作による演出効果をねらった作品、創作ダンス「気球にのって～世界旅行～」を制作、この発表もたいへん好評を博した。



【様式3のE．創作ダンス「気球にのって～世界旅行～」の一場面】

（3）取組の有効性について

〈「にいみこどもフェスタ」開催による教育上の効果〉

1）保育者としての「創造性」や「表現技術」の向上

本取組は単なる学習成果の“おさらい会”ではなく、地域に広く認知された社会的活動として、また貴重な公的資金を支出して行われる地域的活動としての責任があると共に、何より子供たちによりレベルの高い舞台を提供するという目的を持っている。学生はこれらの意義をよく理解し、本取組に対する上級生の努力やその結果得られた表現力の高さに触発・影響されて、毎年、教員の指導によく応え、要求水準を越えるほどの表現力を身に付けて舞台上でその成果を臆することなく発揮する。

なお、本学では学内において年2回、幼児教育学科学生による「プティ・コンセール」と名付けた小規模の音楽会を開き、既に38回を数える催しも続けている。この取組も学生の表現力を向上させる発表の場であり、発表への意欲・態度を養う経験の場でもある。平日の午後に他学科の学生や教職員を対象にした学内発表会ではあるが、日程や時間の都合さえつけば近隣の保育園・幼稚園児の来場も可能である。

学生の「創造性」や「表現技術」に関する評価については、本取組を始めて13年間に4名のホール勤務の舞台技師が関わったが、プロとして多くの舞台に携わってきた4名全員から、本学幼児教

育学科学生の「創造性」や「表現技術」と、真摯に舞台に取組む姿勢に対して極めて高い評価を得ている。

「にいみこどもフェスタ」に関わる科目として成績を評価するのは「総合表現」「総合研究」「表現技術」の3科目であるが、出席・学習態度・表現力・レポート等を総合的に評価した結果、特別の場合を除いて、全員が評定「A」である。

2）「表現力」以外の保育者として必要な資質の育成

以下は、本取組終了後、学生の提出したレポートに基づいてまとめたものである。

a.　舞台進行は出演者だけで成立しているわけではなく、いわゆる「裏方」のスタッフ等舞台に関わる全員が全体の進行を把握し各自の担当や役割を確実にこなすことで観客を感動させることのできる舞台が成り立つのである。
練習やリハーサルを通して学生は、進行上どんなに些細なことでも何一つ不要な役割や業務はないと実感でき、大勢でひとつのことを成し遂げる意義や素晴らしさに感動する。この経験を通して「集中力」「責任感」「向上心」「自立性」「協調性」「人への思いやり」「安全への配慮」等々、保育者として、あるいは社会人さらに人間としての基本的な資質が育成される。

b. 努力すればそれに応じた結果や評価が得られることが、身をもって体験できる。この発表会を経験して、実習をはじめとした様々な行事や日常の授業にもその姿勢や行動を反映させようとする意志がよく窺える。

c. スムーズな進行のためには、周到な準備や片付けが不可欠なことが実感できる。

d. 一人でも欠けるとスムーズな練習やリハーサルができないため、時間厳守で集合しなければ全体に迷惑をかけることがよく理解できるようになり、「時間管理」と共に自己の「健康管理」や「生活管理」の大切さが実感できる。

〈「にいみこどもフェスタ」開催による地域貢献としての成果〉

本取組は定期公演として２月末に行なわれる恒例の催しとなっており、観客動員数の高さや来場者の反応から開催の成果を推し測ることができる。しかし、今後、新たな評価方法として大人の来場者に対するアンケート調査などを現在検討中である。

また、本学の表現系教員や幼児教育学科の学生に対して、保育･教育現場をはじめとして自治体や各種団体からも実技講習会やイベント参加・発表への依頼や要請が相次いでおり、本取組が着実に評価されていることを示すものと捉えている。

（4）将来展望について

本取組は、本学と地域との共生や連携を図ることのできる恰好の取組として既に実績を上げているが、今後さらに発展させていくために次のような計画や展望を持っている。

1）「送迎用バス」の導入

開催ホールは新見市内の市街地にあり、その近隣地域の子供たちにとっては足を運び易く自家用車での送迎も比較的近距離で済むが、周辺の4町や市内でも遠隔地域では30キロ以上も離れた所もある。公共交通機関の便も決して良いとは言えず、来たくても来ることのできない子供たちがまだまだ多いのが現状である。

そこで、この支援経費の補助金を財源に、阿新地域の各所に送迎用の無料バス５台程度（経費20万円）を配車し、少しでも交通アクセスの便宜を図るための計画を立案したい。なお、現在既に1階客席はほぼ満席であるが、安全上の課題をクリアして2階客席も使用すれば300名、午前・午後計600名の更なる収容が可能となる。

2）「巡回公演」の実現

当日来場した保育現場や小学校、公民館活動関係者よりその舞台レベルの高さが評価され、後日、当地へ巡回しての再演希望や、隣接する県外の公共ホールからの要望も寄せられている。申し出は大変有難く、より多くの子供たちが一回でも多く直に舞台に触れ、心や感性の教育に貢献したいところではあるが、本学は舞台のプロ養成の機関ではなく、あくまでも保育者養成の一環としての舞台活動であることと、地域内の子供たちのための再演への意義は十分認められても、時間割上の日程や舞台設備上の制約にも問題があり、何より搬送･移動等経費上の問題

が最大の制約となり実現に至っていない。

そこで、この支援経費の補助金を財源に、周辺の４町を１町ずつ４年かけて巡回し再演する計画を立案したい（経費20万円)。本公演の翌年度夏休みを利用して公演当時一年次生、現二年次生を中心に公演プログラムを手直しして上演、会場使用料等の経費については現取組と同様に各自治体の支援を得、先方負担で実現できるよう交渉する。

3）「メーキングビデオ」の制作

この支援経費の補助金を財源に、業者委託によるビデオ撮影を行ない、授業での作品制作過程や指導方法、公演までの練習やリハーサル風景から本番の舞台等いわゆる「メーキングビデオ」を制作（経費80万円）し、保育・教育現場や保育者養成機関における表現活動の教材として役立てたい。

以上、本取組の最大の特色である地域のホールと本学との共同開催の形は、保育者養成校の行なう表現活動がホールの自主企画事業としてのレベルを備えていることなど、諸条件さえ整えば汎用性は高く、各地で同様の形での開催の可能性は十分にあると思われる。

学生の教育や地域貢献のための貴重な場として実績のある「にいみこどもフェスタ」を、本プログラムの支援を得て、さらに充実・発展させていきたいと願っている。

Ⅱ．採択理由の概要

本学の取組“地域と創るにいみこどもフェスタ”が、平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、新聞紙上における公式発表がなされた平成16年７月30日付で、財団法人大学基準協会・特色ある大学教育支援プログラム実施委員会より本学宛に、「審査結果について」の文書が送付された。

採択理由についての概要は以下の通りである。

①この取組は、新見公立短期大学の基本理念である「誠実、夢、愛」をもとに幼児教育学科全学生が各々の役割を持って参加する表現発表会として、14年間にわたって実施されている取組であること。

②この取組は、実施プログラムの内容等についてすべてオリジナリティにこだわり、教育と地域貢献をとおして学生のモチベーションや学習内容の向上を図っており、他大学に見られない特色が認められること。

③幼児教育・保育系の短期大学では同種の取組が見られるが、この取組はレベルが高く、新見市公立ホールの定期公演としては最大の観客を集め、市内のほとんどの幼児が参加しているなど、地域から大きく支持されていること。

④公演の中で「メディア媒体の活用」をしていることは、IT社会の中で、幼児教育を専門とする学生に必要な技術を学ばせるという点でも優れた取組であり、他の短期大学の参考になり得る優れた事例であること。

⑤今後は、ビデオオンデマンドによる配信、公演録画ビデオの活用、巡回公演の実施など、より多くの幼児が公演を鑑賞できるよう、さらなる努力と工夫を重ねること。

Ⅲ．補助金交付申請の概要

この度の採択に伴ない、上限1,550万円の補助金が交付されることになる。大学改革推進等補助金要綱第4条の規定により、次のような目的及び実施計画を文部科学大臣宛に申請し、平成16年度大学改革推進等補助金として1,450万5千円が交付されることとなった。

１．補助事業の目的

（全体）

本事業「にいみこどもフェスタ」は、規模の大きい本格的な舞台活動の経験を通して、表現力の飛躍的な向上はもちろん、将来、保育者となる幼児教育学科学生の資質向上に繋がる高い教育効果を得ることを目的とした教育実践活動である。

また、地域の公立ホールと本学幼児教育学科との共同開催により、当地域の一人でも多くの子どもたちにできるだけ質の高い舞台鑑賞の機会を提供することも大きな目的としている。

（本年度）

今まで以上に、より質の高い教育実践と舞台発表のために、制作過程や舞台演出効果における質的・量的な充実を図ることを目的とする。

また、学生には設備の整ったホール以外での舞台造りを体験できる教育実践活動を、子どもたちには更なる舞台鑑賞の機会を増やすことを目的に、当地域内遠隔地への移動巡回公演（本年度より準備作業に取りかかり、H17年度実施予定）の実現を目指している。同様に発表・鑑賞の機会を増やすことを目的に昨年度より実施している、情報通信ネットワークを利用した動画によるライブ及びビデオ配信についても更に拡充し、全国配信を視野に入れた展開を目指したい。

さらに、舞台作品の制作・練習風景や本番の舞台などを収録したDVDビデオや過年度作品名場面集を業者委託により作成し、本学学生の教育に資すると共に、保育・教育現場や他の保育者養成機関の教材として役立てることを目指したい。

2．本年度の補助事業実施計画

（1） 新たな演出効果を高めるための舞台用及び作品制作用機材の導入

① 舞台美術用機材

1）本学の発表会の特徴ともなっているメディア機器を活用した舞台演出や広報をさらに充実させるために、新機種のプロジェクター、動画作成関連機器、ポスター製作用ソフト等の導入を計画したい。

これにより更に新しい演出方法を試みることができ、舞台美術を担当する学生の創造性や表現技術の向上が期待される。

2）舞台美術関連の製作機器及び材料の質･量を充実させることを計画したい。

これにより更に効率良く作業を進めることができ、学生の安全上あるいは健康管理上の課題も軽減されることが期待される。

② 音響用機材

1）音響関係の演出、特に作曲や演奏の幅を更に広げるために、新しい音楽作成ソフト及び打楽器の導入を計画したい。

これにより音響担当学生の作曲や演奏に関する創造性や表現技術の更なる向上が期待される。

2）現在使用している公立ホールのワイヤレスマイクは動作上の不都合があるため、ヘッドレスワイヤレスマイクの導入を計画したい。

これによりスムーズな舞台進行が期待され、作品の成果を滞りなく発表することができる。

3）学内練習用として各作品グループで使用できるよう、MD･CD･カセットプレーヤーの台数増加を図りたい。

これにより更なる学習の効率化が図られ、より完成度の高い作品が期待される。

③ 舞台衣装用材料

動きやすい素材や照明効果に映える発色の良い材質の生地・不織布等を調達・保管することを計画したい。

これにより作品制作及び舞台演出上での新しいアイディアを生み出すきっかけともなり、作品の完成度も高まることが期待される。

（2）移動巡回公演及び学内練習・試演会用音響機材の導入

音響関係の機材、特にPA機器（スピーカー・アンプ等）の充実を図り、移動巡回公演及び学内練習・試演会用として使用することを計画したい。

これにより、学内練習時から音響機器の操作に馴れることができ、本公演・移動巡回公演でのスムーズな舞台進行が期待される。

（3）ポスター・プログラム等印刷業者への発注及び案内状等の発送

より広範囲にわたる観客動員と取組紹介を目指して印刷枚数を増やすことと、全卒業生に案内状を発送するための郵送費を確保することなど更なる広報活動の充実を図りたい。

これにより、本学の特色ある大学教育を広範に紹介すると共に、卒業生には表現活動を通した研修の機会となることが期待される。

（4）学内における舞台装置等の製作・収納場所の設置

① 屋外設置のプレハブ作業室（リース契約）

現在、使用している作業室はかなり老朽化が進み、安全上の課題を抱えていることと、舞台

装置、特に大道具の製作にあたって作業上の困難が生じていろことから更新を計画したい。

これにより、更に大掛かりな舞台装置の製作が可能となり、新しい舞台演出の幅が広がると共に、造形表現における創造性や表現技術の更なる向上が期待される。

② 屋外設置の収納倉庫（リース契約）

公演も13回を数え、舞台装置や衣装等がかなりの数量となつているため、新しい収納倉庫の設置を計画したい。

これにより整理された状態での収納が可能となり、スムーズな製作進行が期待される。

（5） 機材運搬用トラックの配車（レンタル）

安全面での課題をクリアするために、荷台の周りにアルミパネルを装着した2tロングトラックのレンタルを計画したい。

これにより効率的で時間の短縮された安全な運搬作業の実施が期待される。

（6） 他学の表現発表会の見学

「H15年度特色ある大学教育支援プログラム」に採択された、新潟中央短期大学の「総合学習としてのミュージカルの制作と上演」について、制作過程（本年度に訪問予定）と、当日の上演（来年度5月に訪問予定）に分けて見学・研修することを計画したい。

これにより本学の取組における課題を把握・明確化することができ、一連の制作・上演過程を通した教育方法・内容の改善に繋がることが期待される。

（7） 広域情報通信ネットワークによる
ライブ配信及びビデオ配信の拡充

本学を管轄する阿新広域事務組合が当地域の300施設を対象に、昨年度公演において実験的にライブ配信を試みた。本年度は、より高画質かつ全国配信を視野に入れた長距離用ライブ及びビデオ配信システムの導入を図りたい。

これにより本学の特色ある大学教育を広範に紹介することができ、保育･教育現場や養成機関の表現活動の教材としても役立つことが期待される。

（8） DVDビデオ等の制作・配付

作品制作・リハーサル風景と舞台本番を収録した全2巻によるDVDビデオと、過年度作品名場面集を業者委託により制作し、保育･教育現場や保育者養成機関に配付することを計画したい。

これにより保育･教育現場や養成機関の表現活動の教材として役立ち、また、本学にとっては取組の記録・保存用としての有効性も期待される。

（9） ホール会場における暖房の導入

予算の都合上、現在、会場暖房は本番当日のみである。公演開催は2月下旬の厳寒期でもあり、適正な学習環境確保のために1週間前からの舞台練習やリハーサル時においても会場暖房を導入したい。なお、通常は時間単位の使用料が必要であるが、ホール側と相談・調整の上、実費での支払いが可能となったため、その概算を予算請求した。

これによりスムーズな舞台練習やリハーサル進行ができ、学生の教育効果も一層高まることが期待される。

謝　辞

平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」申請及びヒアリング、同じく平成16年度申請及びヒアリングを経ての採択の過程はもとより、14年間続けて来ました幼児教育学科表現発表会の開催にあたり、地域や学内の多くの皆様に多大なご支援をいただきました。特に、行政の立場から、言葉では尽くせないご支援をいただきました新見市民会館・まなび広場にいみの歴代スタッフの方々に心より御礼申し上げます。

この採択を励みに、ますます充実した取組を展開し、地域の子どもさん方により楽しんでもらえるような、また、より高い学生の教育効果が得られるような「にいみこどもフェスタ」を地域の皆様と共に創っていく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。この度は、本当にありがとうございました。

Summary

Our project "Niimi Children's Fiesta" which is an outreach program of Niimi College was chosen as one of the "Good Practices(GP)" by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in 2004. GP is the ministry's project to select and introduce unique programs of colleges and universities, and the ministry supports them financially. This report consists of our original application form, an outline of the hearing, the reasons of the adoption, and subsidy grant application.